



Title	パフォーマンス・アセスメントとのその意義
Author(s)	廣江, 顕
Citation	長崎大学大学教育イノベーションセンター紀要, 9, pp.33-45; 2018
Issue Date	2018-03-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/38527">http://hdl.handle.net/10069/38527</a>
Right	

This document is downloaded at: 2019-06-25T10:06:46Z

## パフォーマンス・アセスメントとその意義\*

廣江 顕

長崎大学言語教育研究センター

### Performance Assessment and Its Significance

Akira HIROE

Center for Language Studies, Nagasaki University

#### Abstract

The purpose of this paper is two-fold: It is discussed what the performance assessment (PA) itself should be under the new course of study (2017) and its significance in Japanese junior high schools, then arguing that PA can be a useful tool for making general inferences about the English speaking ability of Japanese junior high school students. The PA is highly requested by the Ministry of Education to capture their exact English proficiency based on a scoring rubric. The scoring rubric should be based on Can-Do lists, which have become significant in that students and teachers share with each other what junior high school students could do in their English classrooms. It is, moreover, suggested that the findings by the PA contribute greatly to improvements of other language skills, if appropriately carried out.

Key Words : performance assessment, Can-Do list, scoring rubric, benchmarking procedure, interrater reliability

#### 1. はじめに

本論の目的は、二つある。一つは、中学校において英語の指導を行う際、学習到達目標をどの程度達成しているかのひとつの重要な指標となり得る「パフォーマンス評価(Performance Assessment: PA)」そのもののあり方について考察を加え、2020年(平成32年度)から完全実施される新カリキュラム並びにその『学習指導要領』の枠内で、どのような形式・方法で実施するのが望ましいかを議論すること。もう一つは、生徒の英語力の一面を正しく測定することがPAは可能であり、その結果、得られた知見をPA以降の授業で活用するのに最適な方法の一つであることを議論することである。現段階では、小学校に導入される教科としての英語に関し、文部科学省がどういった評価を求めるとかについては、依然として不透明なままだが、PA

のような客観的評価方法は、正しく行われれば、中学校と同様に小学校においても、PAから得られる知見はスピーキングのみならず、それ以外のスキルを活用・統合した応用力を育成する際にも十分貢献できることを示唆したい。

一般に語学教育においては、何らかのテストを学習者に対して行う場合、①それまでどういう目的・方法にもとづいて指導を行ってきたのか、次に②どういうテストを作成するのか、つまり、指導を行ってきたことのうち何を問うのか、あるいはそれをどういう方法で測るのか、また③その結果をどういうふうに今後の指導に活かすのか、この三点を切り離しては考えられない。そのうちどれが欠けても、適切なテストとは言えないだろう。

いま述べたことを中学校の英語教育に置き換えれば、①がCan-Do List (CDL)に相当するだろう。

CDLについては、県によって、地域によって、またそれぞれの中学校の取り組みによって、活用の度合いは異なるようだが、特に CDL の公開という観点からは、概して十分とは言えない。CDL に関する取り組み状況を調査したものに「平成 28 年度英語教育実施状況調査(中学校)」があり、日本の中学校における英語教育の一端を象徴しているという点で興味深い。その調査によれば、「「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標を設定している学校は、7,111 校で全体の 75.2%となっており、27 年度の 51.1%から 24.1 ポイント上昇している」ものの、一方で「「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標を公表している学校は 12.0%、学習到達目標の達成状況を把握している学校は 34.2%となっている」ことから、まだまだ学校内で言わば「閉じている」状態と言ってよい。<sup>1</sup>つまり、せっかく CDL を設定しながら、活かし切れていない実態が浮かび上がってくる。

CDL をどういう形で生徒に提示するか、フラッシュカードのようなものにして黒板に単元の冒頭で掲示するか、あるいは英語教師が口頭でアナウンスするかといったような形式論はさておき、生徒と教師が達成目標を、つまり、まさに何ができるようにするか、を共有することの意義は大きい。とりわけ、生徒にも何ができるようにするか、何が使えるようになるか、ということについて、明確に意識することが可能となる。

CDL が本格的に中学校の英語教育に導入される前は、ある種の誤解が存在していたと言える。というのは、CDL が学習者視点で捉えられることがおおく、あくまで「学ぶ」という側面ばかりが強調され、「学ぶ」ことそれ自体が到達目標であるかのように考えられてきたからである。言語は「学ぶ」対象として認識されてきたものの、それ以上に、言語は使うものであるという使用者視点が見落とされてきたと言える。その意味で、CDL をもとにした PA を実施するよう求められつつあるのは、当然の帰結と言えるだろう。

②については、これまでほとんど教師任せだったと言える。中学校現場に即して言えば、例えば、ある学年を一人の英語教師が担当しているような小規模校を除き、複数の教師で担当している場合、

教えてきた内容の何を、どういう設問で問うか、一言で言えば、どういうテスト問題にするかは、担当教師ごとに項目の取り上げ方や扱い方に違いがあっても、問題作成者にほぼ丸投げされていると言ってよい。作成した問題が妥当かどうかを複数の教師で検討する学校もなかにはあるようだが、それほど多いとは言えないのではないだろうか。

最後に、③に関して、対外的なテストが実施されている場合には、テスト全体や設問ごとの正答率が客観的なデータとして提示・共有され、学校ごとにどの項目が強く、どの項目を苦手としているか、教師にはひと目でわかるようになっている。その分析結果にもとづき、教師は生徒の弱点を補強していくために、授業時の帯活動等でどういった対策を行えばよいかを検討する機会が与えられている。長崎県の中学校の場合、「長崎県学力調査テスト」が3年次に課されており、その所管部署が平成 27 年度までは長崎県教育センター、平成 28 年度からは長崎県教育庁義務教育課に移行され、テスト結果の分析等を発信している。<sup>2</sup>

ここで強調したいのは、テスト結果の分析、またその分析によって得られる知見をその後の授業にどう活かすかについて考察を行い、教育委員会が何らかの対応を促す文書を発信していることは、たんなるテスト対策であってはいけないという点である。文部科学省は中学卒業時の英語力の目安として、英検 3 級程度以上を達成した生徒の割合が 50%という目標設定を行っている。その目標をどの程度達成しているかについては、各都道府県教育委員会から文部科学省に報告の義務があり、言わば無言の圧力になっている。一方で、予算措置を行うならば話は別だが、中学生全員に英検 3 級を受験させることはできない。ならば、英検 3 級に相当するような代替テストの資格があるものはないのかと考えるのが自然な流れであろう。あくまで、目標達成のための手段という観点から捉えるべきである。

要は、中学卒業時までに英検 3 級以上、CEFR では A1 レベル以上の英語力を身につけてもらうには、<sup>3</sup> 個々の対外テストの結果云々ではなく、卒業時にリーディング力、ライティング力、リスニング力、スピーキング力という 4 技能がバランス良

く培われていった結果として、英検 3 級以上の英語力を育成することである。

## 2. パフォーマンス評価

### 2.1. 外部専門機関と連携した英語指導力向上事業

パフォーマンス評価とは、文部科学省の『育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会－論点整理－』によれば、以下のように定義されている。

- (1) 知識やスキルを使いこなす(活用・応用・総合する)ことを求めるような評価方法(問題や課題)であり、様々な学習活動の部分的な評価や実技の評価をするという複雑なものまでを含んでいる。また、筆記と実演を組み合わせたプロジェクトを通じて評価を行うことを指す場合もある。

本論では、PA を(1)の前半部分の「知識」から「含んでいる」までとほぼ同じ意味で用いている。<sup>4</sup> そもそも私が PA を行うようになったのは、長崎県教育委員会義務教育課の「平成 28 年度外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」で、長崎市郊外にある研修協力校の研究に関わるようになったのを契機としている。研修協力校 A 中学校(以後、A 中学校と略記する)の「Teaching ideas to improve communication skills」という大きなテーマの下、「既習事項を最大限活用して、身近なことを表現する生徒を育成するための指導の工夫～Focus on Speaking skill～」という具体的な研究テーマを設定した。研究を円滑に進めていくためには、まず生徒のスピーキング力を全体として正確に測定する必要が生じ、PA を実施することが決まった。

### 2.2. 準備

まず、1 年生と 3 年生を対象にすることを A 中学校と相談の上決定し、その上で以下のようなものを準備した。なお、PA は原則として、それぞれの中学校に派遣されている ALT(Assistant Language Teacher)が行う前提で議論を続けるものとする。

- (2) a. 使用教科書  
b. 試験範囲の Can-Do List  
c. スコアリング・ルーブリック

(2)に従い、A 中学校で使用されている教科書及び CDL を入手し、PA を受ける生徒がどのレベルに到達しているかを示す 5 段階のルーブリックを作成した(Appendix A を参照)。

(3)

Descriptions of Performance
<b>5</b> The student understands and answers each question completely and is understood with little effort.
<b>4</b> The student understands most questions with limited repetition needed. The response is sufficient, but may not be completely developed. Answers can be understood with little effort.
<b>3</b> The student understands most questions, but may require questions to be repeated or paraphrased. The response is somewhat limited and/or requires some effort to understand. Meaning may be obscured at times.
<b>2</b> The student has consistent difficulty in understanding and answering questions, even when the question is repeated or paraphrased. The response is severely limited, requires significant listener effort, and meaning is obscured at times.
<b>1</b> The student does not understand or cannot answer most questions. When the student does respond, their language is highly unintelligible.
<b>0</b> The student makes no attempt to respond to any of the questions. Any/all language used is in Japanese.

PA というものは、狭い学習範囲を対象にして行うものではそもそもなく、学期に一回程度行うのが妥当であろう。というのも、PA は(1)で示されているように、決まった問いに決まった表現で応答するような単純なものではなく、あくまで学習者の知識やスキルを活用・応用・統合することを求めており、そうしたことを可能にするだけの学んだ量が必要となるからである。A 中学校で行った PA は、いずれの学年においても、PA を行う前の学期



までに履修した事項をすべて含むものとした。

ただし、PA が妥当なもの、つまり、PA を受ける生徒が英語で応答することが期待されることと、実施する側が想定していることと乖離しないよう、当該学年の担当英語教師と入念に打ち合わせを行い、履修してきた内容、また授業時の言語活動等で取り上げ練習をしてきたことも確認した。一方、実際的な準備事項として、下記のようなこともあらかじめ検討しておいた。

- (3) a. スケジュール
- b. 生徒の割り振り
- c. 試験会場（部屋）

(3a)については、大規模校と小・中規模校とでは自ずから試験時間を確保する際の困難さが異なるであろう。小規模校になればなるほど実施する環境を設定しやすい。それに、人数によっては時間割を操作し、午前と午後のどちらかの時間をまるごと充てる措置も求められるであろう。実際、一学年あたり約220名規模の生徒数があるA中学校においては、1限目から昼休みをはさみ5限目までの時間を要した。(3b)では、試験官(rater)三人で一人あたり15人を担当して授業時一コマを消費した。(3c)については、試験官ごとに部屋を設けた。

### 2.3. 実施方法

まず、第一学年に行った実施方法から説明する。

#### (4) 1. Greetings

生徒が入室したら、“Hello! How are you today?”という挨拶を行い、着席を促す。

#### 2. Biographical Questions

PAを名前、出身地（住まい）、年齢等の質問で開始する。その際、試験官は生徒が理解できるように、特に子音に注意しながらゆっくりはっきり発音する。生徒が理解できない場合は、さらにゆっくりとしたスピードで、再度尋ねる。それでも理解できない場合は、次の質問に移る。

#### 3. “Likes” Questions

何が好きかを尋ねる質問を行う。この項目

には質問が四つ用意されているが、生徒はそのうち二つの質問に回答できればよい。生徒の回答に応じて、リストにある三番目また四番目の質問を行ってもよい。2と同様、生徒が理解できない場合や回答できないと判断される場合は、次の質問に移行する。

#### 4. “Do you ~ ?” Questions

“Do you ~?”形式の質問を行う。三つの質問のうち二つの質問に回答できればよい。質問に yes と回答した生徒には、follow-up question を質問してもよい。質問を理解できない場合や回答ができない場合は、次の Picture Description Task へと移行する。

#### 5. Picture Description Task

生徒は、提示された絵の中の事物や人物について質問される。

- a. 生徒は、提示された絵の中の事物を指されながら、“What is this?”と尋ねられる。質問を繰り返してもよい。生徒は素早い回答が求められる。正しく回答できた場合は、もうひとつの事物を指し同じ質問を繰り返す。
- b. 試験官は、絵の中の事物を指しながら、否定回答を引き出すために、故意に誤った質問を行う。例えば、オレンジを指しながら“Is this a banana?”と尋ね、生徒から“No, it isn’t./ No, it is an orange.”という回答を求める。生徒がこのタスクを理解するのが困難ならば、指示を繰り返す。求めた回答が得られた場合は、もうひとつの事物を指し同様の質問を行う。
- c. bで回答できない場合、以下のd~hの手順で別の質問を行う。
- d. まず、絵の中のある事物を指し、“What is this?”と尋ねる。質問を繰り返してもよい。回答ができた場合は、別の事物を指し、同じ質問を繰り返す。
- e. 次に絵の中の別の事物を指し、正しくない質問を行う。例えば、絵の中のオレンジを指しながら、“Is this a banana?”と尋ねる。否定する回答ができれば可。肯定す

る応答をすれば、もう一度異なる事物で同じ手順を行う。

- f. *How many* 疑問文で提示した絵にある事物について質問を行う。たんなる数(e.g., “Four”)や短い応答(e.g., “There are four birds”)でも可。応答できない場合は、別の事物を選ぶ。それでも間違い続ける場合は、そこで終わるものとする。
- g. PA の終了を生徒に告げる。

次に、第三学年の実施方法を説明したい(手順1及び2については、第一学年と同様のため省略)。

### (5) 3. Daily Habits Questions

日常の習慣を問う質問を行う。この項目には質問が四つ用意されているが、生徒はそのうち二つの質問に回答できればよい。生徒の回答に応じて、リストにある三番目また四番目の質問を行ってもよい。2と同様、生徒が理解できない場合や回答できないと判断される場合は、次の質問に移行する。

### 4. Present Perfect Questions

現在完了形を用いた質問群から、例えば、質問1と3というように、質問を選ぶ。3と同様、四つの質問のうち二つの質問に回答できればよい。生徒は質問文と同じく現在完了形で回答するのが望ましいが、現在完了形を使わずとも適切な回答ができれば可とする。質問を理解できない場合や回答ができない場合は、次の質問に移行するか、次の Picture Description Task へと移行する。

### 5. Picture Description Task

生徒は、提示された絵の中の事物や人物について質問される。

- a. 生徒は、現在進行形(e.g., “the man is going to read”; “the lady is eating”; “the people are talking”)を用いて、提示された絵の中で行われている行為を少なくとも二つ描写する。
- b. 生徒がこのタスクを理解するのが困難ならば、ゆっくり指示を繰り返すが、それ

でも困難な場合は、試験官は絵の中の登場人物の一人を指しながら、“What is she/he doing?”と尋ねてもよい。

- c. bで回答できない場合、以下のd~hの手順で別の質問を行う。
- d. まず、絵の中のある事物を指し、“What is this?”と尋ねる。質問を繰り返してもよい。応答ができた場合は、別の事物を指し、同じ質問を繰り返す。
- e. 次に絵の中の別の事物を指し、その事物を故意に間違える。例えば、絵の中のオレンジを指しながら、“Is this banana?”と尋ねる。否定する回答ができれば可。肯定する回答をすれば、もう一度異なる事物で同じ手順を行う。
- f. 最後に、*How many* 疑問文で提示した絵にある事物について質問を行う(e.g., “How many birds are there?” / “How many people are there?”)。たんなる数(e.g., “Four”)や短い応答(e.g., “There are four birds”)でも可。応答できない場合は、別の事物を選ぶ。それでも間違い続ける場合は、そこで終わるものとする。
- g. PA の終了を生徒に告げる。

### 2.4. PA 終了後

生徒のスコアのダブルチェックを行う。生徒の動機付け、また英語そのものとアセスメントタスクを嫌がらないよう、ループリック評価に関する一般的かつ肯定的なコメント(e.g., “Nice work!”, “Good effort!”, “Way to go!”, and “Nice job today!”)を書き返却する。

### 2.5. パフォーマンスの解釈

PA(本論では、スピーキング力の評価)というものは、試験官が生徒の回答を観察する際、個々の判断にどうしても主観が混入してしまう可能性を否定できない。その可能性をできるだけ排除するために、生徒の回答を判断する際の指針として、標準化されたスコアリング・ループリックを活用することで客観性が保たれる。そうすれば、試験官の間で生じる差異を最小限に抑え込むことがで

き、PA そのものの妥当性・信頼性を担保することができる。

さらに、スコアリング・ルーブリックに従って、個々の生徒がどのスコアになったのか、クラス単位ではどういう結果になったのか、また学年単位ではどういう傾向になったのか、等々を試験官同士で、授業を担当している教師も交えて議論することが求められる。さらなる要請として、もし可能ならば、パフォーマンスが行われた状況を加味した形で、実際に観察されたパフォーマンスが、スコアリング・ルーブリックのそれぞれのレベルに相当するものであったかもできるだけ具体的に捉えておくことが望ましい。

### 3. スコアリング・ルーブリックで想定されるパフォーマンス

スコアリング・ルーブリックは、6つのレベルに分けられており、それぞれのレベルには想定されているパフォーマンスの質がある。ただし、そのレベル分けはあくまで目安であり、現実には例外が多数観察されることもあれば、個々人で差が観察されることも少なからずある。

では、具体的に想定されているパフォーマンスレベルを見てみよう。

#### Level 5

このレベルの応答は、かなり自動的にかつ流暢に行われ、試験官は生徒が言うことを理解するのにほとんどあるいはまったくといってよいほど努力を要しない。質問を繰り返さないといけなことがあるとしても、1回あるか無いかという程度。当該の生徒は自信を持ち、質問されている内容以上のこと（なぜそうするのかという理由や、どうやってやるのかという方法）についても言及することがある。それぞれの質問に完全に応答がなされ、ターゲットとしている言語の特徴（例えば、現在完了形を使用する要請）も含んだ形で応答を行なっている。

#### Level 4

応答は適切に行われているものの、それほど自動的かつ流暢でもなく、一度あるいは二度、質問を繰り返す必要がある。生徒が言うことは、努力を

ほとんど要せず理解可能だが、話す内容には幅がない。それでも生徒は、すべての質問になんとか応答ができる。

#### Level 3

生徒は、ほとんどの質問に理解はできるが、(3回は)質問を繰り返したり言い換えたりする必要がある。応答の形式は限られたパターンばかりで、理解するのに努力を要する。意味不明な応答もよく観察され、生徒は(第3学年では)、現在完了形を使った質問に回答することができないし、(第1学年では)「何が好きか」との質問に回答できない。したがって、試験官はより単純な質問を選ばなくてはいけなくなる。

#### Level 2

生徒は、質問を理解することも質問に回答することも、質問を繰り返したり言い換えたりしても、困難なレベルである。したがって、多くの質問に回答できず、回答したとしても、回答の形式が極めて限られている。試験官は生徒の回答を理解するのに多大な努力を要するほど、意味不明なことがおおい。(第3学年では)現在完了形を使った質問に、(第1学年では)「何が好きか」を問う質問に回答できないばかりか、フォローアップのための質問にも回答できない。

#### Level 1

生徒は、ほとんどの質問を理解できず、また応答もできない。なんとか回答したとしても、発することばは意味不明か、日本語が含まれていることがおおい。回答可能な質問としては、名前や住まいといったものがあるものの、動詞が脱落していたり妙な抑揚がついた発音をしてしまう。(第3学年では)現在完了形を使った質問に、(第1学年では)「何が好きか」を問う質問に回答できないし、他の質問にもほとんど回答できない。仮にできたとしても、回答が意味不明。

#### Level 0

このレベルは、極めて稀なケースではあるものの、いかなる質問にもまったく応答しようとするしない生徒を想定している。頑なに日本語しか使おうとしない。

#### 4. PA の結果

PA は、A 中学校と相談の結果、2 回実施した。1 回目は 1 年生と 3 年生に行い、2 回目は 2 年生に実施した。本論では、PA を実施して得た知見をその後の授業に活かすことも考察の対象としているため、同じ生徒集団に 2 度実施し、その伸びや共通して観察される誤り等の推移を捉えておく必要があった。

##### (8) 1 回目の評定ごとの割合と平均値

###### 【1 年生】

0	1	2	3	4	5	AVG
0%	3.9%	13.9%	33.3%	30.6%	18.3%	3.46

###### 【3 年生】

0	1	2	3	4	5	AVG
0.5%	7.7%	13.3%	32.8%	31.8%	13.9%	3.3

1 回目の PA で観察されたことには、以下のようなものがあった。

##### (9) 1 年生

- Do you* ～? といった一般動詞の疑問文や *Is this* ～? といった *be* 動詞の疑問文に、*No, I'm not* と応答する生徒が目立った。
- 主語代名詞を落とした英文 (e.g., *like baseball*) を話す学生が多かった。
- How old are you?* という英文が理解できない生徒が極めて多かった。
- 冠詞がない英文を話す生徒がほとんどだった。

##### (10) 3 年生

- 進行形が正しく使えない生徒が目立った。典型的には *be* 動詞を落としていた。
- There* 構文で *there* を落としていた生徒が目立った。
- How* 疑問文 (e.g., *How was your trip?*) や *what do you do with your friends?* という特定の表現が理解できなかった。
- 現在の習慣を問う質問 (*What do you eat for breakfast?*) に、過去形で応答する (*I ate* ～) 生徒が目立った。

PA によって明らかになった、(9)(10) にリストアップされている、1 年生、3 年生、それぞれの弱点を踏まえた形で授業時の帯活動で取り入れた結果が、以下の(11)のようになった。

##### (11) 2 回目の評定ごとの割合と平均値

0	1	2	3	4	5	AVG
0%	2.3%	4.0%	11.5%	31.9%	50.3%	4.2

(8) と (11) を比較すると、PA によって浮き彫りになった生徒の弱点を、授業時のスピーキングのみならず、さまざまな活動で取り組んでもらうことにより成果が出たことがわかる。

#### 5. パフォーマンス評価の妥当性

標準化されたスコアリング・ルーブリックはあるものの、その一方で、どの程度のパフォーマンスを行えばどのスコアになるのかについては、それぞれの中学校に派遣されている ALT が試験官となることが要請されることを想定すれば、他の試験官とスコアリングに個人差が生じてしまうは想像に難くない。そういった事態を回避するためには、何らかの「基準となる手順 (benchmarking procedure)、つまり、どのスコアレベルでどういったパフォーマンスが求められるかの具体例を試験官同士で共有しておけばよい。そうすれば、PA 終了後に、どの程度スコアリングが共有できたか、またどの程度判断が別れる点があったかを議論することができる。ただし、PA の様子をすべて録画・録音することが前提となるので、実現生は甚だ低いと言わざるを得ない。

もうひとつの可能性としては、スコアリングの基準をあらかじめ作成しておき、実際の PA を行う前にプレアセスメントを任意の生徒の集団に行い、録画・録音し、試験官すべてにスコアリングを行ってもらい、相互に比較し合うことも考えられる。そうすることで、PA それ自体の信頼性・妥当性が増すことは疑いない。またあるいは、試験官二人に互いの生徒をスコアリングし合うこと (interrater reliability) という方法もあり、首尾一貫したスコアリングと信頼性を保証するもうひとつ方法ではある。



いずれにせよ、PA は正しく行われれば、中学生の英語運用力を正確に把握するのに極めて有効な手立てのひとつであることは間違いない。

## 6. おわりに

以上、A 中学校で行った PA をもとに、その準備、実施方法、得られた結果及びその分析について詳細にモニターし議論してきた。2 回目の PA で平均スコアが劇的に伸びたことは、1 回目の結果とその分析によって得られた知見をもとに授業計画を再構成したこと、帯活動の内容と指導方法を A 中学校の担当英語教師が見直した結果である。

同様の PA を小学校においても実施することを強く推奨したい。2020 年から新しい指導要領のもと教科としての英語が新しくカリキュラムに導入されるが、授業を担当する教師並びに ALT の配置状況を考えれば、PA を円滑に実施できる環境とは言い難い。文部科学省も来年度予算に英語の専科教員の配置増を求めているものの、英語の教員免許を持たないにもかかわらず、教科としての英語を教えることを強制されるという根本的な問題がどの程度解決できるかについては、少なくとも現時点では否定的な見方しかできない。

例えば、例外的な措置ではあるものの、中学校の英語教員が小学校に一定期間異動できるような措置を長崎県は来年度から行うようである。同じような試みを行った地域が少数ながらあったが、その効果に関するきちんとした検証が行われているかどうかははっきりしない。いずれにせよ、中学校の英語教員に小学校で教えさせれば事足りるという単純な問題ではない。というのも、小学校の児童という発達段階には、それ相応の指導法や理論があり、中学校の英語教師が取っている生徒へのアプローチ方法とは異なるものだからである。

こうした状況を改善していくためには、教育学部等の養成段階からのカリキュラムの見直しを行い、小学校の英語の授業に対応する人材を育成し、一方で現職の教師には、教員研修等の機会を利用して講習を行っていくといった方法が考えられる。PA もそのような機会を利用して、実施方法や意義を伝えていければと考えている。

## 注

\*本研究は、「平成 29 年度文部科学省教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」からの援助を一部受けている。また、本研究を実施するにあたって、長崎県教育委員会義務教育課にご協力いただいた。それに諫早市教育委員会には、指導主事並びに ALT に現場で実施する際の有益なコメントもいただいた。感謝申し上げたい。

1. 長崎県の場合、「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標を設定している学校は 83.9%、その目標を公表している学校が 7.5%、公表している学校は 34.5%に留まっている。
2. 長崎県教育委員会義務教育課は、毎月 1 回の割合で、『明日のために』という紙媒体で、英語だけでなく他の教科も同様に発信している。
3. CEFR(Common European Framework of Reference for Languages)では、最も初歩的なレベルが A1 であり、英検 3 級より低いレベルもその中に含まれている点に注意。
4. Language assessment がどのようなものであるべきかを概説的に論じたものに Brown (2012)。他に具体的な方法を論じたものに Brown (2013)がある。

## 参考文献

- 1) Brown, J. D (2012) *Developing, Using, and Analyzing Rubrics in Language Assessment with Case studies in Asia and Pacific Languages*, Nflrc Monograph.
- 2) Brown, J. D (2013) *Developing Rubrics for Language Assessment*, URL: <https://vimeo.com/60470458>
- 3) Crusan, D (2013) *Designing Writing Assessment and Rubrics*, URL: <https://vimeo.com/79501398>
- 4) 文部科学省(2014)「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会—論点整理—」p. 42.
- 5) 文部科学省(2016)「平成 28 年度英語教育実施状況調査」pp.1-8.
- 6) 文部科学省(2017)『中学校学習指導要領』(URL: [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661\\_5.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661_5.pdf))

## Appendix A

### First Year Oral Assessment

#### Introduction

1. What is your name?
2. Where are you from?
3. How old are you?

#### Likes

1. What sports do you like?
2. What music do you like?
3. What movies do you like?
4. What subjects do you like?

#### Do you... Questions

1. Do you play baseball / tennis / basketball?  
A. What sports do you play?
2. Do you play the piano / violin / guitar?  
A. What do you play?
3. Do you like spaghetti / pizza / apples / milk?  
A. What foods do you like?
4. OPTIONAL: Do you have a pet?  
A. Do you want a pet? What pet do you want?

#### Describe a picture

1. Show picture to student...
  - A. What is this (point to something)?
  - B. Is this a/an \_\_\_\_\_ (say something incorrect) pen / apple / orange / computer / notebook...?
  - C. How many men are there? / How many women are there?

## Appendix B

### Picture Description Task for First Year Students



## Appendix C

### Third Year Oral Assessment

#### Introduction

1. What is your name?
2. Where are you from?
3. How old are you?
4. What do you do in your free time?

#### Daily habits

5. What do you do after school / before school / on weekends?
6. What do you eat for breakfast / lunch / dinner?
7. What do you do with your friends?
8. What do you do for Obon / New Year's?

#### Present perfect questions

5. Where have you been in Japan? What cities have you visited?
  - ① When did you go? How was your trip?
  - ② Do you want to go to Tokyo?
6. What sports have you played?
  - ① What sports do you like?
7. Have you ever seen a Disney movie?
  - ① Which movie have you seen? How was it? (OR Did you like it? Was it funny?)
  - ② What is your favorite movie?
8. Have you ever visited any famous places in Japan?
  - ① Where did you go? How was the place?
  - ② (If "no") Where do you want to visit?

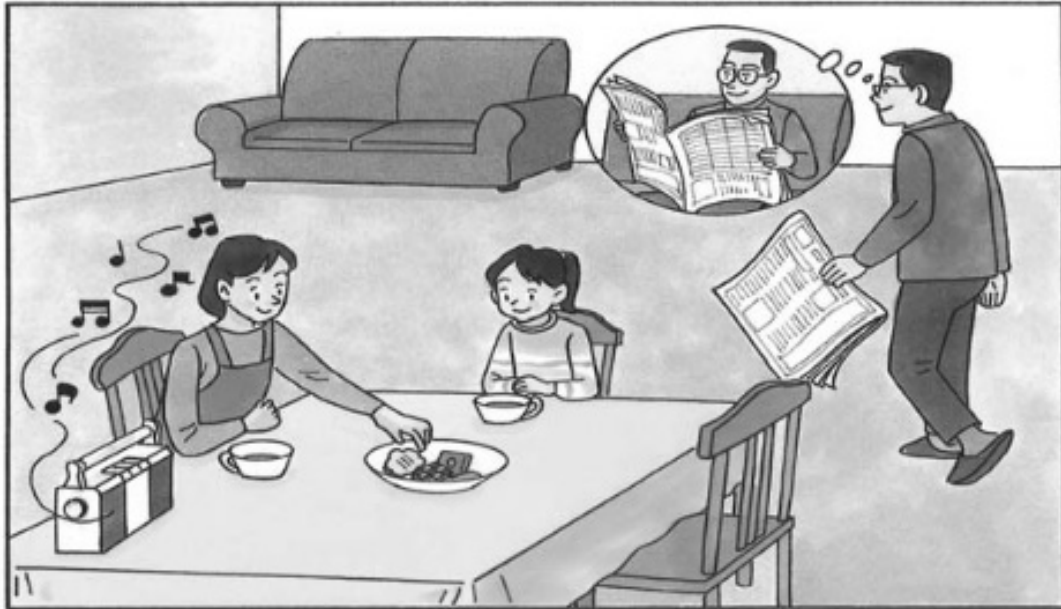
#### Describing a picture

- 1) Show picture to student and say, "Please tell me what the people are doing in this picture."
  - a) If student cannot respond, ask the following questions:
    - i) What is this (point to something)?
    - ii) Is this a/an \_\_\_\_\_ (point to something)?
    - iii) How many \_\_\_\_\_ are there?



Appendix D

Picture Description Task for Third Year Students



Appendix E  
Nagasaki Junior High School Speaking Assessment Rubric

<b>Student Name:</b> _____	
<b>Descriptions of Performance</b>	
<b>5</b>	The student understands and answers each question completely and is understood with little effort.
<b>4</b>	The student understands most questions with limited repetition needed. The response is sufficient, but may not be completely developed. Answers can be understood with little effort.
<b>3</b>	The student understands most questions, but may require questions to be repeated or paraphrased. The response is somewhat limited and/or requires some effort to understand. Meaning may be obscured at times.
<b>2</b>	The student has consistent difficulty in understanding and answering questions, even when the question is repeated or paraphrased. The response is severely limited, requires significant listener effort, and meaning is obscured at times.
<b>1</b>	The student does not understand or cannot answer most questions. When the student does respond, their language is highly unintelligible.
<b>0</b>	The student makes no attempt to respond to any of the questions. Any/all language used is in Japanese.
<b>Comments</b>	

